

障害者支援施設 清風園

1 施設を取り巻く現状と課題

令和 11 年に開設 50 年を迎える清風園だが、令和 7 年 10 月現在、利用者の平均年齢が 62 歳で、65 歳以上が 45% と高齢化が進み、身体機能の低下や基礎疾患の悪化に伴い介助量が増加している。また、重度障害者支援加算の対象利用者が 40 名と定員の半数に達するなど、行動障がいのある利用者も増加傾向にあり、多様化したニーズに対応するため、専門的かつ個別性のある統一された支援が求められている。

また、令和 6 年度の制度改正により、強度行動障がいのある者の受入体制の強化、緊急時の重度障がい者受入機能の充実等が事業者に求められているとともに、第 3 次大田市障がい者計画策定に当たり障がいのある人を対象に実施されたアンケート調査では、280 名中 46% の方が「家族がいなくなったときの生活が不安」と回答しており、支援が必要な方への住まいの場の確保という地域ニーズに積極的に対応していく必要がある。

一方で、福祉職場を取り巻く厳しい雇用環境は当園も例外ではなく、人材不足が継続している。圏域の有効求人倍率について令和 6 年 4 月以降の平均値は 1.1 倍程度であるものの、大田市の人口は年齢にかかわらず減少傾向にあり、職員定数を充足できない状況が続いている。さらに、利用者の減少により収支状況が悪化している事業があり、退所者のさらなる増加も見込まれる。

こうした現状と課題を踏まえ、今期中の目指す姿を実現するため、また、大田市障がい者計画の基本理念に基づく地域での施設の役割を果たすため、当園の取組の方向性を次のとおりとする。

「サービス」について、利用者の重度化・高齢化に対応するため、職員の専門性及びチームワークの向上を図るとともに、利用者の多様なニーズへ確実に応えるため、意思決定支援の充実に取り組む。また、利用者の権利擁護と虐待防止について、職員間で共通認識を持ち、虐待や不適切ケアの防止に取り組むほか、感染症及び防災対策といった危機管理を徹底し、新しい事故防止活動の取組を進めることで、利用者の安全安心な暮らしを保障する。さらに、テクノロジーの積極的な活用により、サービスの質を向上させる。

「職場づくり」について、人材を獲得するため、仕事と家庭の両立に向けた支援、やりがいや施設の特徴等について、施設内外への採用活動及び広報活動を推進する。また、リーダー的職員の育成をとおして職員のモチベーションを高めるほか、承認力を向上させる取組に加えて積極的に従来業務を見直すことで職場風土を改善し、働きやすい職場環境を構築する。さらに、ICT 活用により、生産性の向上や業務の

効率化といった課題解決を推進し、魅力ある職場づくりを目指す。

「地域共生と経営」について、地域に安心を届けるため、大田市内唯一の障害者支援施設として地域の福祉ニーズに積極的に対応していくとともに、開かれた施設として地域の人々に親しんでもらえるよう地域交流の充実を図り、地域における施設の役割を強化する。また、利用の低迷により収支状況が悪化している事業については、利用率を向上させて改善を図るとともに、将来的な定員変更など中長期的な事業のあり方について検討する。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上

ア 個別ニーズに応じた専門的なケアの充実で、個々の利用者の QOL を高める。

実 施 策	専門性及びチームワークの向上、意思決定支援の充実
現 状 と 課 題	利用者の重度化・高齢化や多様化したニーズに対応するため、介護技術や行動障がいへの対応など職員の専門性の向上や意思決定支援の充実について取り組むとともに、ユニットのリーダー的職員を育成し、チームワークを強化する必要がある。また、研修等での学びを実践につなげる必要があるが、ユニットとしての取組が不十分である。
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護技術の習得や行動障がいへの対応について、研修への参加、セラピストやアドバイザー等専門職の訪問指導等を実施し、職員の専門性を向上させる。 ② 重度障害者支援加算の算定をとおし、チームとして専門性の高い統一した支援を実施し、サービスの質を向上させる。 ③ 日常生活や社会生活に関して、利用者が自らの意思が反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に係る取組を強化する。 ④ 年度末に次年度の部署目標を定め、PDCA サイクルで目標を達成する取組をとおして、現場のリーダー的職員を育成する。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実 施 策	権利擁護と虐待防止の強化
現 状 と 課 題	職員個々の経験、価値観等による虐待や不適切ケアを防止するため、権利擁護や虐待防止について組織的な取組を強化し、職員間で共通認識を持つ必要がある。
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者本位の支援を組織的に実践するため、施設内外の研修に参加して、権利擁護や虐待防止について職員間の共通認識を図る。 ② 職員のセルフチェックなど虐待防止マニュアルに基づく取組に加え、虐待防止検討チームの活動を推進し、勉強会や意見交換など内容を充実させる。 ③ 日常生活や社会生活に関して、利用者が自らの意思が反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に係る取組を強化する。(再掲) ④ 毎年度自己評価を実施し、評価結果から明らかになった改善項目について、事業計画に基づき計画的に改善を図る。

実施施策	感染症及び災害対応の徹底、新しい事故防止活動の推進
現状と課題	感染症による重症化の予防、防災対策の強化等危機管理を徹底し、利用者の安全安心な暮らしを保障する必要がある。また、事故カンファレンスや危険発見活動など新しい事故防止活動の取組を進めているが、職員の理解が不十分である。
取組の方向性	<p>① 危機管理について、定期的に専門職の訪問指導を受け、感染症及び災害対応マニュアルを定期的に見直し、適切に対応できるようにするとともに、実効性のある訓練を実施する。</p> <p>② 新しい事故防止活動に係る研修を実施し、防ぐべき事故を確実に防ぐことができるよう職員の理解を深め、効果的な事故防止活動を行う。また、ヒヤリハットについて「ちょこっとカンファ」を実施し、重大事故の発生を予防する。</p>

ウ テクノロジーを活用した根拠のあるケアの提供で、サービスの質を高める。

実施施策	テクノロジーの積極的な活用によるサービスの質の向上
現状と課題	テクノロジーを積極的に活用し、個別ケアの充実、多職種連携の強化、入浴や移乗支援等の改善といった課題解決を推進し、重度化・高齢化した利用者へのサービスの質を高める必要がある。
取組の方向性	<p>① 施設でのテクノロジー活用を中心に取り組むワーキングチームを設置し、課題解決を推進するとともに、施設内外で成果等を共有し、サービスの質の向上につなげる。</p> <p>② セミナーや研修、他施設見学等へ参加し、情報収集を行うとともに、自施設の状況を客観的に理解できるようにする。</p> <p>③ 食事提供に係るサービスの質や生産性を向上させるため、厨房機器の導入に併せて従来の調理業務を改善する。また、おいしく、楽しく、安全な食事提供に向けて職種間の連携を強化する。</p>

(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 採用ブランディングの強化と多様な人材活用で、優秀な人材を獲得する。

実施施策	採用活動及び広報活動の推進
現状と課題	職員の欠員が続き、ユニットの負担感が増え、また、専門性も高まりづらいといった悪循環があり、これを解決する必要があるが、求人に係る施設内外へのPRなど取組が不十分である。
取組の方向性	<p>① 特に準職員の雇入れにつなげるため、夜間勤務の免除など仕事と家庭の両立に向けた職場の支援について、施設内外へPRする。</p> <p>② Instagram やホームページ、中学校職場体験、農産物や手芸品の販</p>

	売、利用者のアート作品の展示等を活用して、施設の広報活動を強化する。
--	------------------------------------

イ キャリア形成の仕組みを整え、職員が成長を実感できることで個々のモチベーションを高める。

実施施策	リーダー的職員の育成
現状と課題	利用者の重度化・高齢化へ対応するため、ユニットのリーダー的職員を育成し、チームワークを強化する必要がある。また、研修等での学びを実践につなげる必要があるが、ユニットとしての取組が不十分である。 (一部再掲)
取組の方向性	① 年度末に次年度の部署目標を定め、PDCA サイクルで目標を達成する取組をとおして、現場のリーダー的職員を育成する。(再掲) ② 職員の積極的な資格取得を支援する。

ウ 風通しの良い職場風土づくりで、健康的で働きやすい職場環境を構築する。

実施施策	職場風土の改善
現状と課題	働きやすい職場環境を構築し、職員の定着、専門性の向上等を図るため、お互いによいところを認め合い、困ったときに助け合うことができる職場風土づくりを推進させる必要がある。
取組の方向性	① 職員間の信頼関係を強化し、同じ目標に向かって互いに協力できる職場風土をつくるため、ぐっジョブシートなど承認力を高める取組を行う。 ② ちょこっとカンファ、事故カンファレンスなどの取組を行い、困ったときに機を逃さず話し合うことができるようにする。 ③ すべての職員にとって働きやすい職場環境を整えるために必要かつ合理的な対応ができるよう、養成講座の受講等必要な取組を行う。

実施施策	人手不足感の解消
現状と課題	新しいことへ果敢に挑戦するとともに、利用者の状態や職員配置などの変化に柔軟に対応し、積極的に従来の業務を見直すことができる職場風土をつくる必要がある。
取組の方向性	① 利用者本位の視点で積極的に従来の業務を見直す取組を行う。 ② 男女の支援員間の協力体制を強化する。 ③ 他施設見学、研修参加等により情報収集を行った上で、利用者状況、業務内容等に基づき、適正な人員配置、業務分担等について検討す

	<p>る。</p> <p>④ 食事提供に係るサービスの質や生産性を向上させるため、厨房機器の導入に併せて従来の調理業務を改善する。また、おいしく、楽しく、安全な食事提供に向けて職種間の連携を強化する。(再掲)</p>
--	--

エ ICTの活用で業務の生産性を高め、職員の多様な働き方を実現する。

実施施策	ICT活用による魅力ある職場づくり
現状と課題	利用者の重度化・高齢化に対応するため、積極的にICTを活用し、サービスの質の向上に加え、生産性の向上や業務の効率化を推進し、魅力ある職場づくりを目指していく必要がある。
取組の方向性	<p>① 施設でのテクノロジー活用を中心に取り組むワーキングチームを設置し、課題解決を目指す。(一部再掲)</p> <p>② セミナーや研修、他施設見学等へ参加し、情報収集を行うとともに、自施設の状況を客観的に理解できるようにする。(再掲)</p> <p>③ テクノロジーの活用事例について実践報告会等で報告を行い、施設内外で成果等を共有し、サービスの質の向上につなげる。</p> <p>④ 食事提供に係るサービスの質や生産性を向上させるため、厨房機器の導入に併せて従来の調理業務を改善する。また、おいしく、楽しく、安全な食事提供に向けて職種間の連携を強化する。(再掲)</p> <p>⑤ ペーパーレス化やキャッシュレス化を推進し、特に支援員の事務負担軽減を図る。</p>

(3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立

ア 地域の関係機関との連携を深め、地域の中で果たすべき役割を明確にする。

実施施策	地域における施設の役割強化
現状と課題	<p>地域に安心を届けるために、大田市内唯一の障害者支援施設として地域の福祉ニーズに積極的に応えとともに、増加傾向にある複雑化・複合化した課題に対して行政や他の福祉サービス事業者と連携して対応していかなければならない。</p> <p>また、開かれた施設として地域の人々に親しまれるよう、引き続き地域交流の充実を図るとともに、専門性を備えた社会資源として、地域における施設の役割を明確にする必要がある。</p>
取組の方向性	<p>① 入所の必要性が高い重度者や緊急時の受入れに加え、短期入所の受入体制をさらに整備し、地域ニーズに応える。</p> <p>② 大田市や相談支援事業者との連携を深め、各支援機関の役割分担を明確にし、多機関協働体制を強化する。</p>

	<p>③ 保育園や学校との交流、地元自治会の環境整備、郷土芸能活動の支援といった地域交流活動を充実させる。</p> <p>④ 施設が地域住民に親しまれるよう、Instagram やホームページ、中学校職場体験、農産物や手芸品の販売、利用者のアート作品の展示等を活用して、施設の広報活動を強化するとともに、障がいへの理解を広げる。（一部再掲）</p>
--	--

イ 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用率の向上及び積極的な加算の算定
現状と課題	地域における施設の役割を果たすため安定性の高い財務体質を維持する必要があるが、利用の低迷や経費の増大により収支状況が悪化している事業があり、これを改善する必要がある。
取組の方向性	<p>① 収支状況が悪化している事業について、ワーキングチームを設置して改善を図るとともに、事業の広報活動を積極的に行う。</p> <p>② 重度障害者支援加算の算定をとおし、チームとして専門性の高い統一した支援を実施し、サービスの質を向上させる。（再掲）</p> <p>③ 収支状況の改善を目的に、ICT を活用して業務の見直しを行う。</p>

ウ 中長期的な視点をもった事業運営で、経営の持続性・透明性を高める。

実施施策	中長期的な事業のあり方
現状と課題	退所者の増加が見込まれる一方、入所希望者は十分ではなく、将来的な定員変更に備えて検討を進める必要がある。また、グループホームと生活介護（通所）の効率的な運営についても改善が必要である。
取組の方向性	<p>① 現入所者に係る退所シミュレーションを継続するとともに、定期的に入所待機者の意向を確認し、入所候補者を確保する。</p> <p>② 収支状況、職員体制等を踏まえた適正な入所定員数、ユニット構成等について検討を行う。</p> <p>③ グループホームと生活介護（通所）の運営を効率的なものに見直す。</p>

3 目標利用率

事業名	定員	R7 年度 見込値	目標値				
			R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
施設入所支援	80 名	97.0%	97.5%	97.5%	97.5%	97.5%	97.5%
生活介護	80 名	97.5%	97.5%	97.5%	97.5%	97.5%	97.5%
短期入所	10 名	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%
共同生活援助	14 名	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%
せいふう (生活介護・通所介護)	20 名	66.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%
相談支援 (計画作成件数)	-	月 18 件	月 18 件	月 18 件	月 18 件	月 18 件	月 18 件
相談支援 (モニタリング件数)	-	月 28 件	月 28 件	月 28 件	月 28 件	月 28 件	月 28 件

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
介護浴槽・入浴用車椅子(リクライニング式)	4,478				
床走行式電動介護リフト	350				
空調設備改修工事(やまびこ・こだま)	5,080				
空調設備改修工事(すばる・めぐみ)		7,304			
空調設備改修工事(つばさ・あすなろ)			5,593		
公用車(軽自動車・福祉車両)	2,154				
公用車(普通自動車・福祉車両)		3,190			
加熱機能付きブラストチラー&ショックフ リーザー・1 曹シンク			5,044		
省スペース洗浄機					2,420
カラーレーザープリンタ(栄養士室)		193			
せいふうトイレ改修工事	583				
施設サーバ	833				

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

（単位：千円）

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
仕切り建具設置工事（ひかり・あさひ）	407				
照明設備改修工事（あさひ・ひかり）	3,484				
照明設備改修工事（やまびこ・こだま）		3,750			
照明設備改修工事（つばさ・あすなろ）			4,175		
照明設備改修工事（すばる・めぐみ）				2,209	
照明設備改修工事（管理棟）					3,405
支障木伐採（吊切伐採）	429				
支障木伐採（枝打ち）	209				
外周碎石敷設工事	990				
畳スペース撤去工事（あすなろ）	550				
畳スペース撤去工事（つばさ）		550			
リビングフローリング修繕工事（やまびこ）			836		
リビングフローリング修繕工事（こだま）				836	
リビングフローリング修繕工事（つばさ）					836
活動室②フローリング工事	330				
活動室①フローリング工事		330			
非常用発電機用蓄電池交換工事			473		
強度行動障がい者処遇支援環境整備	2,422				
せいふうポーチ下屋根設置工事	286				

6 大規模修繕計画

（単位：千円）

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
屋上防水シート更新工事	57,000				